

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3270101532		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム アンジュ		
所在地	島根県松江市西津田4丁目7番18号 (電話) 0852-20-6000		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(20年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月30日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤12人, 非常勤3人, 常勤換算13, 3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	18,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,340円		

(4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	10名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均	85歳	最低	74歳	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江記念病院・原田医院・大町歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

毎月、利用者自治会を開き生活全般に対する要望などを聞き、利用者の希望に沿った生活支援を心がけているホームである。利用者は好きな時にタバコを吸ったり、お茶を点てる、カラオケを歌う、盆栽の手入れをするなど、自分のペースで生活している。「季刊アンジュ通信」は利用者から聞き出した話を紹介し、思いをゆっくりと聞いたことがわかる内容になっている。管理者、職員は事例発表をしたり、話し合いを大事にし、問題意識をもってグループホームのあるべき姿を模索している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「利用者本位の介護計画」は、センター方式を取り入れながら利用者の意向を尊重した内容に改善し、見直しも毎月行うようになった。「鍵をかける支援」「災害対策」は、継続して改善に向けた検討を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を実施する前に職員会議などで評価の意義の理解と活用について話し合い、項目ごとに分担を決め職員全員で評価を行った。評価の指針としてガイドブックを活用し課題の共有に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 議題を工夫し活動報告、外部評価報告などのほかにケアプランの事例発表や看取りケアの意見交換などを行っている。意見から災害時に利用者がわかるようにたすきを用意した。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時や運営推進会議などで意見を聞いている。日常的に訪問がある家族は半数で、訪問の少ない家族の意見はあまり聞けていない。職員の顔がわからないという意見には名前入りの写真を作って対応した。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し敬老会や健康体操などの催しに参加したり、避難訓練の場面を見てもらい協力の約束を得ている。中学生の職場体験学習や不定期だがボランティアとの交流もあり、意識的に連携に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をわかりやすい言葉でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に説明し、理念に沿ったケアが行えるように指導したり、事業計画書に明記し職員全員で確認しあっている。職員は、理念を理解し利用者主体のケアを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し敬老会などの催しに参加したり、避難訓練や運営推進会議などをおして連携を図っている。中学生の職場体験学習を受け入れている。	○	認知症の相談など、ホームとしてできることを探し交流の輪が広がることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議などで評価の意義と活用に関して話し合い、職員全員で項目ごとに分担を決め評価を行った。ガイドブックを活用しての評価や実践に取り組んでいる。	○	年間を通して計画的に評価に取り組まれることを望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、外部評価報告などのほかにケアプランの事例発表、ターミナルケアの意見交換などを行っている。会議での意見は運営に反映させている。	○	議題を工夫されているが、継続して議題を話し合ったり、参加者の工夫も検討していただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議が主な連携の場となっていて、会議の中で出された不明なことや疑問点については指摘や助言をもらっている。	○	さらに積極的に市の担当者と共にサービス向上に取り組まれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当者がユニットだよりや近況報告書で様子を伝え金銭報告もしている。季刊アンジュ通信は、利用者の言葉を文章にするなど内容を工夫し、暮らしぶりを生き生きと伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などで意見を聞いている。職員の異動があった時、家族から名前が覚えられないという意見が出され、写真に名前をつけて対応した。	○	運営推進会議への家族の参加人数を増やしたり、面会の少ない家族の意見の引き出し、家族同士の交流など検討していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は基本的に行わないようにしているが、止むを得ず異動があった時には前担当者から十分話を聞いたり、全職員で協力しあって利用者への影響を少なくしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ケアプランの事例発表会を行い内部研修をしている。外部研修に参加した時には全職員に報告し内容を共有している。資格取得に向けた支援もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加し情報交換をしたりグループ討議を行い、互いに質の向上に努めている。	○	同業者との相互訪問も積極的に取り組んでいただきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的には利用者、家族に見学してもらってからサービスを開始している。体験入居もできる。利用者の状態によっては慣れるまで家族に協力を求めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の話を聞く中で利用者のことを深く知り尊敬の気持ちを抱いたり、利用者の言葉から気づきや学ぶことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や趣味活動時などにさりげなく思いを聞いたり、利用者自治会で生活全般の要望を聞いている。センター方式を取り入れてからよりこまやかに把握するようになった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	原案は担当者が立て、全職員で意見交換をしながら利用者の意向に沿ったプランを具体的に立てている。プランの実践と継続が課題になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの評価を改善し、一ヶ月に一回、見直しや評価を行うようになった。状態変化のある時には随時話し合い新たなプランを作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や、医療連携体制加算をとり利用者の変化に早期に対応するように努めている。友人の展覧会に行くなど、利用者の希望に応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望によるかかりつけ医の受診を支援している。定期的に受診し、皮膚科や歯科は往診してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の希望、利用者の状態によっては医師の指導を受けながらホームで看取りをする考えがあり、職員も方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入浴やトイレの時には利用者の気持を尊重し同性介護をしたり、尊厳を傷つけない言葉かけに気を配っている。守秘義務を厳守している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースを把握して利用主体の生活支援に努めている。部屋で一日過ごす事のないように配慮もしている。テラスで自由にタバコを吸う利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夜は法人の食事を利用しているが、月に1～2回は利用者の希望を聞きながら一緒に食事作りをしている。これまで何度かホームでの食事作りに取り組んだが、継続できなかった。	○	食事作りは利用者が生活の主体者として力を発揮できる重要な活動なので、話し合いを重ねながらよりよい方法を見つけていただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がる利用者が多く職員は声かけを工夫しながら支援している。おおよその曜日を決定しているが利用者の希望を尊重している。夜間入浴は行っていない。	○	利用者の希望によっては夜間入用も可能な体制作りが望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	盆栽の水やり、剪定、洗濯物たたみ、掃除、おしぼりたたみなど、利用者の力を活かせる場面がある。お茶を点てる、カラオケなど、楽しみごとの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やテラスでの日光浴、食事とりに同行してもらするなど希望や状態にあわせた支援に努めている。車は受診に使うことが多く外出希望にすぐに対応できないこともある。	○	さらに外出支援に力を入れていただきたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2ユニット共に、暗証番号で開ける自動ドアが取り付けられており自由に開閉できないが、天気のいい日には開放するなど意識的に取り組みを始めている。	○	利用者の自由な暮らしの支援を継続して検討していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災訓練を実施している。町内会の防災部に訓練の様子を見てもらい、二次避難援助の協力の約束を得ている。夜間は2ユニット一人体制で対応に不安がある。備蓄はしていない。	○	夜間の職員体制が検討されているので是非実現していただきたい。備蓄についても検討が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェックし利用者の状態を把握している。咀嚼や歯の状態により食べやすい食事形態にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の絵や書、手作り品、花などを飾り落ち着いた環境づくりを心がけている。ソファや小テーブルを置き自由に過ごせる場所を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの写真や書を飾ったり、趣味のお茶道具、筆筒や鏡台、仏壇、冷蔵庫、電気カミソリなど、利用者に必要な物品を持ち込みその人らしい居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。